

東淀中校長室だより 防災特集号

東淀中学校ホームページにカラー版をのせてています。

発行 NO.23

大阪市立東淀中学校
校長 生長 政彦



いつ起こるかわからない大災害に備えて、日ごろの心づもりや訓練が大切です。いざというときには、正しい知識や判断力が生死を分けることになるかもしれません。今回東淀川区役所より資料を提供していただき、防災特集号として掲載できることとなりました。これを機会に一度家族で話し合ってみてください。

地域の特性

東淀川区は、地理的に淀川と安威川・神崎川に挟まれた地盤の低い地域であり、過去に幾多の災害により浸水した経験がある。標高は、海拔1m～5mと低く、全体が淀川などの河川の氾濫により形成された沖積層で泥・砂・礫などによる地盤で、未固結の軟弱な堆積層が表層に広がっている。

水害予測

①淀川外水氾濫：予測図によると本校区における浸水深の最大は4.0m～5.5mで、収容避難所である豊里南小学校で1階まで、北淀高校で2階まで浸水する予測である。
②神崎川・安威川の外水氾濫：予測図では中南部で1～2m、北西部の一部で0.1m～1mの予測となっている。
③内水氾濫(下水道氾濫)：校区南部で1.0m～2.0m、中部以北では0.1m～1.0mと予測されている

地震予測

これまで、南海トラフで発生する巨大地震は、90年から150年の間隔で発生していたことが確認されている。しかも、3か所の想定震源地域で3つの地震が短期的に連動して起きることが多いという特徴がある。最後に東海地震が起きてからすでに150年以上が経過しており、そのために地震は明日起きてても不思議ではないと言われている。ちなみに南海トラフが活動したときの震度予測は震度6弱の激しい揺れが発生すると予測され、もし、3つが連動したりすると短期間に震度6以上の大きな地震が頻繁に起こる可能性がある。また、上町断層の直下型地震では震度6強、一部で震度7の揺れが予測されている。

東南海・南海地震の発生確率

南海地震:30年以内 50～60% 50年以内 80～90%

東南海地震:30年以内 60～70% 50年以内 90%以上

津波予測

南海トラフによる地震で大阪には1時間から2時間ほどで津波が到着すると考えられている。東淀川区に直接津波が押し寄せてくる可能性は低いが、淀川や神崎川をさかのぼって浸水被害をもたらす可能性がある。水害予測と同じように警戒する必要があると思われる。

日頃から災害に対する「心構え」と「備え」を

津波の心得5カ条

1. 地震の揺れを感じたら、津波に注意！海や川からすぐ離れる。
2. テレビ・ラジオなどで正確な情報を収集。
3. 避難情報が出たら、声をかけあってすぐ避難。
4. 避難は徒歩で、高い場所か、建物の3階以上に。
5. 津波は繰り返しやってくる！避難解除までは家に帰らない。

備えあれば憂いなし

・家庭での備蓄品

食料品、飲料水、カセットコンロなど

・非常持ち出し袋の準備

食料品、飲料水、ラジオ、懐中電灯、貴重品など



・家族防災会議の重要性

(津波・高潮ステーションガイドブックより)

もしも、登下校中に地震が起きたなら、どうする？

- ・身を低くして、カバンやリュックなどで頭を守りましょう。
- ・揺れている間はうろうろせず揺れ終わるまでじっとしていてください。(難しいかもしれません、建物のそばはガラスや屋根瓦が落ちてくるかもしれません。できるだけ広い空間の下を選んでください。)
- ・揺れがおさまれば津波に備えますが、大阪では津波到着まで1時間から2時間かかるといわれています。ただちに一人で高い所に避難するよりも家に家族がいる場合、安全を確認しながら帰宅して家族の方と合流してください。もし、家に誰もいない場合、すぐに学校に戻りましょう。

いざというときのために、家族防災会議をしておこう！

どこで、どんなときに地震が起きるかはわかりません。震災時には携帯や公衆電話は繋がらない可能性が高く、家族が離れ離れになってしまってなかなか連絡がつかない状況も考えられます。まずは、自分の身の安全を確保したあと、どこで集合するのかを家族で確認しておきましょう。いろいろな状況を想定した上で、家で被災した場合の役割分担や、離れ離れになったときの具体的な取り決めをしておけばいざというときに役立ちます。

津波・水害時避難ビル一覧 (資料提供: 東淀川区役所)

豊里1丁目: 新東淀中学校

豊里5丁目: 豊里小学校、豊里南小学校、

市営豊里住宅1～3号館

豊里6丁目: 東淀中学校

豊里7丁目: 大阪北視覚支援学校、

市営豊里第2住宅17～18号館

豊新4丁目: 豊新小学校

豊新5丁目: 市営豊新住宅1～2号館